

平成 18 年 12 月 16 日

## インド投資セミナー（要点）

日 時 : 平成 18 年 12 月 15 日  
場 所 : 日本商工会議所  
備 考 : Manmohan Singh 印首相 12 月 14-16 日公賓として滞日、  
Kamal Nath 印商工相出席の下セミナー開催

### 第一部 1400－1530

新田勇委員長挨拶（日印経済委員会常設委員会）

渡辺 JETRO 理事長 :

対印投資は延 60 億ドル、対中は 2000 億ドル、今から対印が伸びると確信する

Nath 商工大臣 :

1988 年国会議員として初来日した、当時 日本の財界人は「インド財界人すら印政府を信頼していない」と指摘しインドに対する認識も低かったし、インド自体も停滞していた。印日双方が大きく変化している。

インドはその成長が軌道に乗った民主主義国である。アセアン諸国や中国に比べ投資環境に格差があると指摘する向きもあるが、経済生長に於ける中国 Model は輸出を念頭に置いたものであるのに対し、インドは経済改革に当り自分の Model を追及しており、それが内需主導の Indian Model である。

IT、バイオ、製薬、などでインドは製造部門の拠点になっており、それらは技術主導の分野である。インドは Indian Model を追及しつつ 2 桁成長を実現する。

知的財産権に関して言えば、インドではブランド物の偽物を作っていない。これはインドに於ける good governance を示すものである。

日印の政府間交流提携は軌道に乗りつつあるが、交流の肉付け即ち民間の交流が重要であり、なにかんづく若年層の交流が図られるべきで、彼等の希望と needs の把握をしなければならない。

過般、日本の中小企業のミッションを迎えた、中小企業は製造技術 innovation の源であるので、彼等がインドに大きく関与することが求められる。この観点からインドに日本町を作ろうかと言う Plan もある。又、日本の金融機関も今から大いに活動して欲しい。

北村 審議官(METI) :

この 3 年間に Nath 大臣に 5 回お目にかかっている。 過日のダボスの会議は主題がインドであり、大臣はスターだった。

インフラストラクチャー不足が投資促進面でのブレーキになっているので、その解消策として日

印は二つの取組みを合意した；

- ① ムンバイ・デリー間の大動脈道路建設（数千億円—1兆円規模のプロジェクト）
- ② インド西岸の港と貨物鉄道の整備

この2 Projects は既に **feasibility study report** も出来ている。

甘利大臣と Nath 大臣の間で、中小企業がインドに進出して電力不足をカバーする為に自家発電を所有することは負担が大き過ぎるので電力問題を検討している。

今夕、日印両首脳の間で **EPA 締結推進** を合意する手筈になっているが、**wide range** ゆえ、**EPA 締結**には時間が多少かかると予想する。

大橋会長（日印経済委員会）：

今年は1月と9月に訪印した。来年は日印交流年として、日本文化を紹介する様々な催し物をインドで開催することが予定されている。ビジネスと文化の結びつきを期待している。

偶々、榎大使が出席しておられるので私の時間を大使に使って頂きたい。

榎駐印大使：

**Manmohan Singh** 首相の今回の訪日は後で振り返ると **Turning Point** だったと言う結果になるだろう。Nath 大臣はデリーにいらっしゃる場合、面談依頼に必ず応じて下さり、過日の中小企業 **mission 30** 名も纏めて面倒みようとして全員を引見して下さい。

**EPA** 交渉開始を合意し、今晚記者発表されるが、締結までに1-2年を要しよう。又 **EPA** かと言う向きもあろうが、アジアの **GDP** 中 日本は約 **50%** を占めておりインドは **10%** を占めている。アジアの **60%** を占める両国が **EPA** 締結することは大きな意義を有する。日本の **50%** は近い将来若干低下するだろうが、インドが増えるので合計 **60%** は続くだろう。

現在、在日インド人は約 **15000** 人だが、**EPA** が締結されれば **10-20** 万人になるだろう。

日本は **80** 年代アセアンの製造業勃興に寄与し、**90** 年代は中国に向った。**2000** 年に入ってインドに向いつつある。来年1月に私の任期は3年を過ぎることになるが日印経済関係が自動拡大期に入っていると楽観している。

日系企業の方が困ったことに直面したら、是非大使館に協力を求めてください。出来る限りのことを必ずします。又、**METI/Jetro** が日印関係緊密化、投資促進、に本気であることが嬉しい。

第2部 1540-1730 産業別 Presentation

及び質疑

に就いては省略。

以 上